



よこはま

http://www.mod.go.jp/dfab/yokohama/

横浜防衛施設局
 総務部編集
 横浜市中区
 北仲通5-57
 横浜第2合同庁舎
 ☎(045) 211-7129(広報官)



花 火 (横浜みなとみらい21地区) (施設部 岩橋榮一氏提供)

目次

- 1 横浜防衛施設局は南関東防衛局
に変わります
- 2 新幹部の紹介
- 3 業務の紹介・思い出など
- 4 寄稿
- 5 研修実情・計画
- 6 米軍関係者感謝状贈呈
- 7 退職者、大変ご苦労様でした
- 8 新しい仲間、どうぞよろしく
- 9 あとがき

横浜防衛施設局は南関東防衛局に変わります

平成19年9月1日、
横浜防衛施設局は装備本部横浜支部と統合し、
南関東防衛局として新たなスタートをします。

南関東防衛局までの変遷

調達庁
横浜調達局

昭和27年4月

防衛庁建設本部
東京建設部横須賀支部

昭和29年7月

横浜防衛施設局

昭和37年11月

装備本部横浜支部

平成18年7月

[昭和50年7月 調達実施本部横浜支部新設
平成13年1月 契約本部横浜支部に組織改編]

南関東防衛局

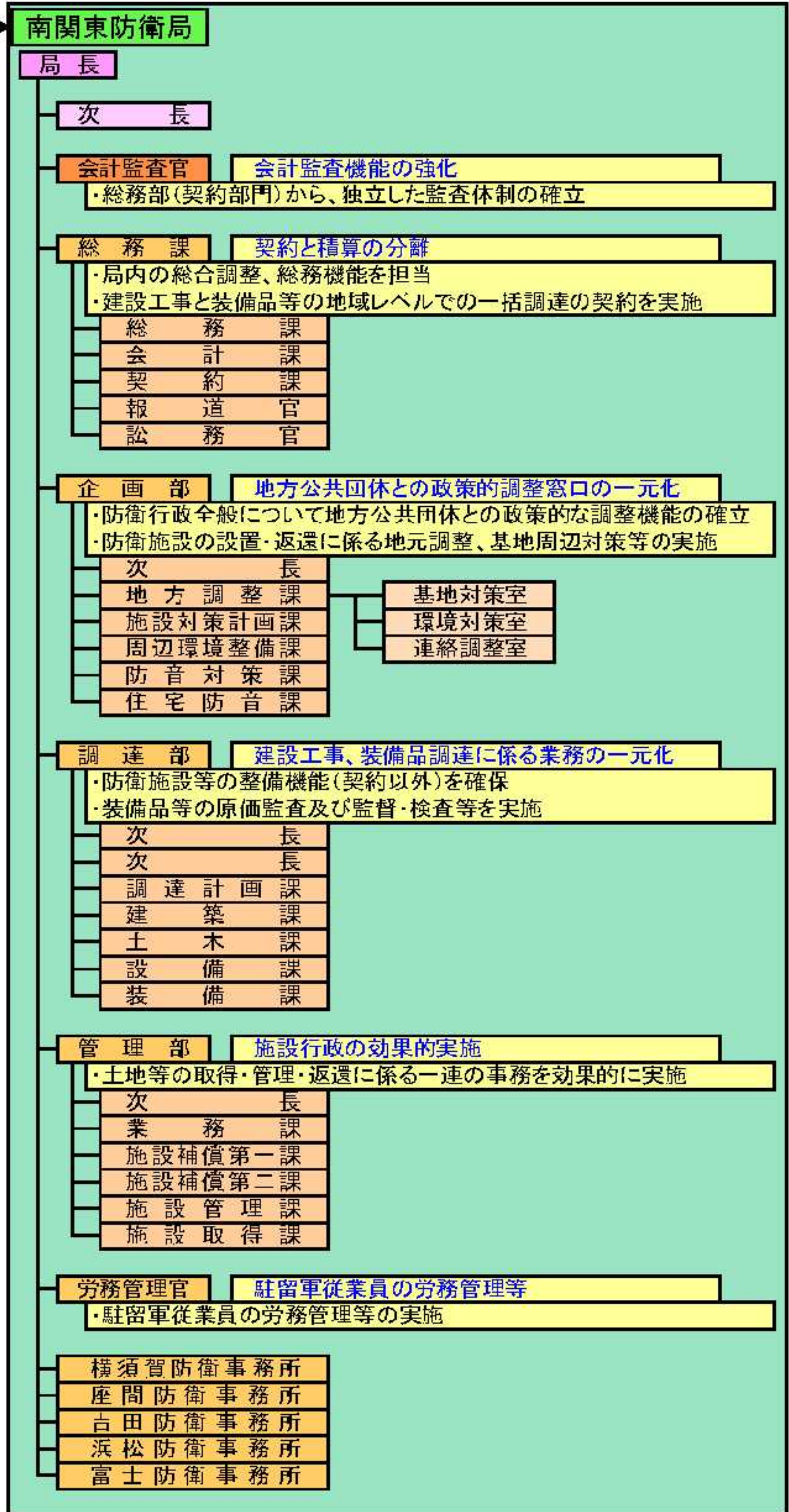
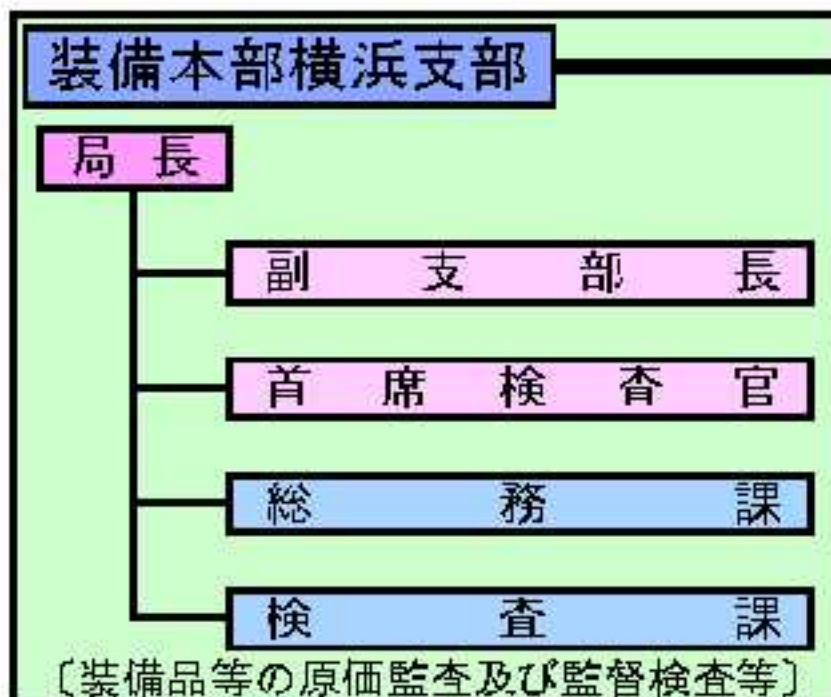
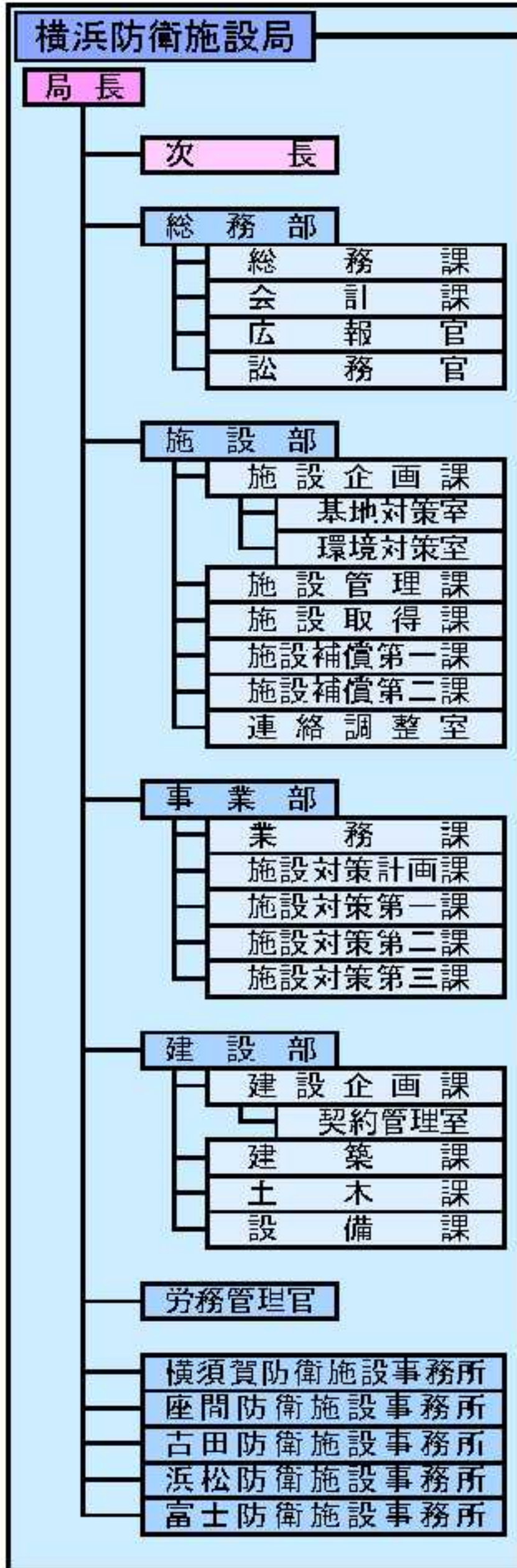
平成19年9月



新しい組織

[統 合 前]

[統合後 (平成19年9月1日以降)]



南関東防衛局は……

これまで横浜防衛施設局や装備本部横浜支部が果たしてきた役割も受け継ぎつつ、次の業務などを行い、地域の皆さんとの関係がさらに強化されるよう努めてまいります。

- 防衛省の施策を地元丁寧に説明 ●
- 防衛施設の整備に伴う各種の地元との調整 ●
- 米軍再編に関連した地元への説明 ●
- 部隊の新改編に伴う地元との調整 ●

主な業務内容

総務部

局内の総合調整、会計処理、情報公開・行政相談窓口等は、そのまま受け継ぎ、当局が発注する工事に係る契約などを行うこととしています。

企画部

防衛省の施策の実施、防衛施設の運用（使用協定の更新、防衛施設の設置・返還、米軍訓練の分散・実施など）に伴う地元調整や基地周辺対策（河川整備、住宅防音事業など）を行うこととしています。

調達部

当局が発注する建設工事（契約事務は除く）などの実施や装備品等の調達に伴う原価監査、監督、検査などを行うこととしています。

管理部

防衛施設の設置・運用などに伴い生じる損失補償、土地等の取得・管理・返還などに係る事務及び日本に駐留するアメリカ合衆国軍隊の構成員等の行為による被害への対応などを行うこととしています。

南関東防衛局は、防衛省の地方における防衛行政の拠点としての役割を果たせるよう、各部相互に連携して参ります。

新幹部の紹介

労務管理官 中野 俊昭
(昭和25年生)



平17・5・9
独法駐留軍等労働者労務管理
機構本部業務部業務企画課
長代理
平19・7・1 現職

業務の紹介 思い出など

東富士演習場周辺
まちづくり支援事業(事業部)

御殿場市は、平成18年度から自衛隊と地域住民との交流の拠点として「交流センター」の整備事業を実施しています。

この事業は、当庁の補助事業である防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条「民生安定事業」

に基づくもので、「まちづくり」のための支援として防衛施設庁長官の告示を受け、防衛施設の存在を活かし、自衛隊と地域住民との交流を促進するための催しの用に供する施設として助成しています。

御殿場市はこの「東富士演習場周辺地域のまちづくり事業」の計画に当たり、自衛隊と地域住民との交流の場でもあり、市民からかねてより望まれていた、世代を超え子供からお年寄りまで一緒にふれあえる、総合福祉機能を備えた市民交流の拠点を、市のほぼ中心に「センターゾーン」として整備することとしました。



センターゾーン

また、同市内の東富士演習場に近接している地区を「富士山ゾーン」として、自衛隊の活動・情報や富士山をテーマとした展示施設や交流の森・広場などを計画しています。

現在整備中のセンターゾーンは、敷地約1.8haに鉄筋コンクリート造地下1階地上2階建て、延べ床面積約6、200平方mの施設に、子育て支援センター、児童クラブ室、市民活動室、デイサービスセンター、交流ロビーなどを計画しており、また、この周辺には市の陸上競技場のほか、体育館、ふれあいプール等の施設もあり、まちづくりの中核施設と



センターゾーン

して機能することとなります。既に平成18年度から工事に着手し、平成20年秋の完成・供用開始を目指しています。

なお、両施設においては、市、関係部隊、当局により自衛隊と地域住民との具体的な交流内容(展示部門への協力、各種イベントの協働、災害救助活動等の講演、音楽隊の演奏、演習や自衛隊に関する訓練の紹介など。)について検討を行っており、自衛隊と地域住民との新たな交流の場として活用されることが多いに期待されています。

施設整備工事

(建設部)

当局が、陸上自衛隊駒門駐屯地に建設した国際活動教育隊庁舎について紹介します。

駒門駐屯地の国際活動教育隊は、自衛隊の国際活動の拡大に備え、平素から国際平和協力活動の専門の部隊を維持する事が必要であるとの考えから、海外派遣要員の教育・訓練を行うことを目的に編成された部隊です。

同庁舎は、国際活動教育隊の活動拠点として建設したもので、工事は平成18年6月に着手し平成19年6月末に完成しました。

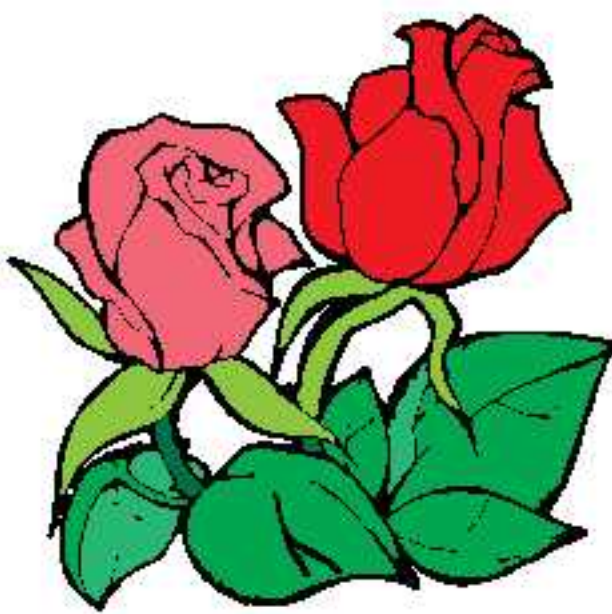


同庁舎は、鉄筋コンクリート造3階建、延べ面積約3,000㎡の事務室、会議室、教場等の部屋からなる、事務庁舎と教育施設の両方の性格を持つ施設です。設計に当たってはコンセプトは、同施設が本庁舎であり、かつ、駐屯地内の中核施設であることに着目し、機能と品格を備え重厚感と存在感ある施設となるよう外観デザイン、色調等を決定しました。



外観は、シンメトリー（左右対称）をキーワードとし玄関を中心に左右に広がりを持たせ、また、タイル張りの柱型を連続することで縦ラインを強調し建物の存在感を演出しています。

また、内部レイアウトについては、多様な性格を持つ各部屋間の動線を考慮し、効率的な執務環境の確保を基本にしつつ、建物中央を吹き抜けとし、エントランスホール上部に天窗を設け3層吹き抜けとすることにより明るく、広がりのある空間を演出しています。



施設部の思い出

（施設部 梶 和男）

私が入庁したのは、今から三十七年前の昭和四十五年である。

そのころはまだ北富士演習場においては入会闘争の真只中であり、米軍の実弾射撃訓練等に地元住民が立ち入らないように警備要員として局及び事務所職員が動員されていた。朝の暗いうちから籠坂峠をマイクロボス等に分乗し、梨ヶ原に向かった。

局の幹部からは「道中ゲリラに襲われても車は死守せよ。」との話があったことをよく覚えていいる。

この時代は、職員より官用車の方が大事にされていた時代であったようだ。

梨ヶ原に着いても現在のようない立派な建物ではなく、物置のようなものであつて、休息しようにも隙間風が入って来てとても仮眠できそうになかった。

ようやく集合がかかって、指定された現地にそれぞれ配置された。

私は「与兵流れ」という入会道の警備ということで先輩と三名で現地に車で送られ警備に付いた。

所持品は自衛隊から朝ボイルし、供与されたまだ暖かい鳥飯の缶詰が一人2個と水筒、ヘルメット、軍手が手渡され、三人で入会道から地元住人が演習場に立ち入るのを説得す

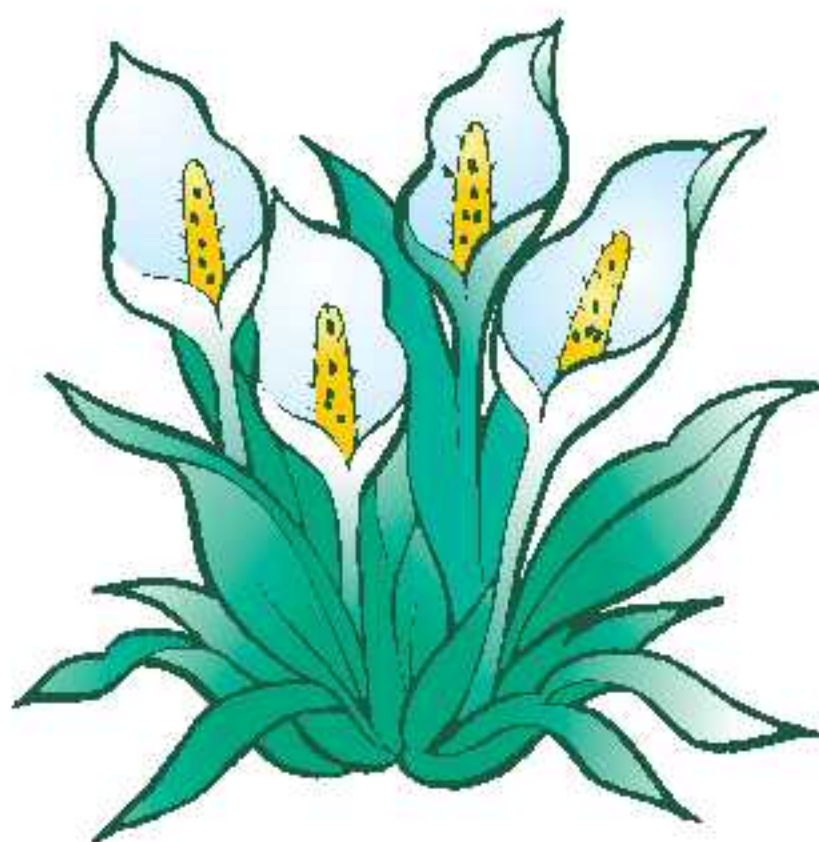
るわけだが、孤立して外部からの情報もなく又本部への連絡手段もなく、人つきの無い林の中で何時ゲリラ等に襲われるかを心配し、火の気の無いところで震えながら、暗くなるまで警備をやった思い出がある。

現在の104米軍射撃訓練の警備とは、装備等にも格段の相違があつたが古い時代なので誰一人文句を言うわけでもなく命令に従っていたようだ。

何故か、さめた鳥飯の缶詰でも空腹のせい、意外に美味しかったのも思い出の一つに残っている。

結果として私の警備していたところには誰一人現れず、安堵したわけである。

これが、私にとって初めての演習場警備であるが、それから三十七年経った現在も姿・形を変えて警備が行われている。



池子の思い出

(施設部 T・S生)

現在、神奈川県逗子市及び横浜市金沢区にかけて米軍施設である「FAC3087池子住宅施設及び海軍補助施設」が所在している。

戦前は、旧日本海軍軍需部が池子倉庫として使用し、戦後は連合国軍により接収され弾薬庫として使用されてきたが、昭和60年には池子弾薬庫から冒頭の施設名に変更され米軍住宅等の施設となっている。

私は、平成の初めごろ施設管理課の職員として当該施設を担当し、財産管理の一環から施設の外柵等の状態を確認するため徒歩により見て回っていた。

歩いたコースは、施設南側の京急逗子線側や北側の鎌倉市沿いから横浜市金沢区へ抜ける道であるが、一部険しく近づけない所もあった。

施設沿いを歩いていた時から20年近く経つが、近く現在所属する課の引越があるため机の中を整理していたら、外柵沿いを歩いていた時の自分や同じ係の者が書いたメモが出てきた。懐かしさから、記されたそのままをいくつか列記してみたい。

- *月*日：マムシが出現し危ないところであった。
- *月*日：クモの巣多し。うさ



- *月*日：野犬(2匹)に追いかけられた。
- *月*日：草が沢山あり、一部ヤブこぎがひどかった。
- *月*日：草、ハチ、クモ、蚊等に悩まされた。

当時のメモ書きを見ているうちに、当時のことが断片的に思い出された。

例えば「マムシが出現し危ないところであった。」というのは、施設西側の外に久木大池公園があるが、そこから急坂を登り施設外柵に出て鎌倉市との境を歩いていた時、小憩を取るため道沿いに腰を下ろそうと



した所にマムシがいて、みんな驚いたことがあった時のことである。また、「草、ハチ、クモ、蚊等に悩まされた。」というところは、夏は暑い上に草が生い茂り、また虫が飛んできたりして少しづらかった時の様子である。

でも、冬は空気が澄み日だまりを見つけて昼食を摂るなど、低山ハイクの感じが味わえたことも思い出した。さらに、「二つの波(?)」を象った刻みの下に海軍の二文字の境界標や山中に突然現れる万代堀の様なもの外柵沿いにあった事も思い出した。

既に外柵沿いを歩いていた頃からかなりの時が経つが、来年の春にで

も施設のそばにある梅で有名な十二所(じゅうにそ)果樹園が開園している時にでも周辺を歩いてみたいと考えている。



寄稿

良きパートナー

横浜防衛施設局

(富士学校管理部演習場管理課
渉外専門官 防衛事務官
立道 和策)

御殿場地方も長かった梅雨も明け、本格的な夏を迎え庭先には鮮やかな朝顔の花が咲き各地で夏の行事が催されている今日この頃皆様方いかがお過ごしでしょうか。

この度「よこはま」に寄稿依頼を受け業務での思い出について話させていただけます。

平成七年四月から現在まで約十二年四ヶ月東富士演習場の業務を担当し、この間大なり小なり各種事案が発生しました。

東富士演習場使用協定（第八次、第九次）の締結、沖縄県道一〇四号線越え実弾射撃訓練の分散・実施、

市街地訓練場建設及び米軍一時使用、東富士演習場内官塚弾着地柵等の設置、平成十五年五月及び六月の演習場外での不発弾爆発事故、東富士演習場内第三者の使用（御殿場高原花火大会、戦国自衛隊及び樫三郎他撮影）、東富士演習場治山治水対策事業に係る調節池、貯砂池の整備他多種多様の業務をさせていたいただきましたが、その中で印象に残った業務は平成十年二月に沖縄県道一〇四号線越え実弾射撃訓練の分散・実施に伴う東富士演習場への受け入れではなかったでしょうか？

東富士演習場が候補地として浮上する直前に白井日出男元防衛庁長官が富士学校及び東富士演習場を急遽視察に来られ、当時の演習場管理課長松本純三一等陸佐と共に白井日出男長官を御案内させていただきました。

視察が終了し御満悦な長官をお見送り後、これで本土五演習場の一つは東富士演習場に決定だなど私自身思いました。

その後は一〇四訓練受入れに伴う東富士演習場使用協定を基本原則とした東富士演習場行政・権利協定当事者合同会議及び使用協定運用委員会並びに米軍管舎地区返還問題専門委員会等国側と地元行政（御殿場市・裾野市・小山市）・権利者間で

七回の会議・委員会が開催されました。

一方、会議会場及び米軍キャンプ富士、演習場周辺では平和委員会、革マル等の外郭団体による「移転射撃訓練反対・米軍帰れ」のデモがその都度行われ異様な雰囲気の中、国側、地元行政及び権利者側相方が幾多の苦難の道を乗り越えて地元行政及び権利者側の要求である「同質・同量」を条件に一〇四訓練本土移転受け入れが東富士演習場に決定したのです。

ここで一つ申し添えておきます。東富士演習場をとりまく権利団体「東富士演習場地域農民再建連盟」は一切外郭団体の応援を受け入れていません。その理由は「東富士は東富士のルールがある。東富士演習場使用協定を尊守さえすれば何ら問題が生じない。何か事が生じた場合はお互いにテーブルに着き話し合えば物事は解決する。東富士演習場は紳士協定から成り立っている。」と地元権利者は国側に対して好意的に前向きに接していただいています。

私は国と地元のパイプ役として又、陸上自衛隊にとっては極めて重要な道場である東富士演習場に骨を埋めるつもりで今日まで職務に専念してまいりました。

「東富士演習場は永久に不滅です！」
横浜防衛施設局管内には、在日米陸軍・海軍司令部及び厚木飛行場を

はじめとする駐留施設並びに陸上自衛隊東富士・北富士西演習場等重要施設を管轄し地元の理解を得る事が最重要任務と認識し毎日御苦労されている事と思えます。

今後も東富士演習場長期安定使用に御尽力していただける事を節にお願ひ申し上げます。防衛省設置法等の一部を改正する法律で平成十九年九月から横浜防衛施設局が南関東防衛局に生まれ変わります。

今後ともより一層のチームワークで各種事業等の信頼関係及び良好な人間関係の構築等にご尽力して頂ける事を確信しております。

最後になりましたが、横浜防衛施設局広報誌「よこはま」の第一〇二号発刊おめでとうございます。

時の流れに

（横須賀H生）

私は、戦後のベビーブームに生まれた、いわゆる団塊の世代である。

今、幼いときの記憶をたどると、幼稚園入園前の4才の頃、近所の貸家に駐留軍の兵隊一家が住んでいた。今で言う、中佐が大佐クラスではなかったか。というのは迷彩色の軍用のジープがあり、ガムやチョコレートを貰って遊んでもらった記憶があるからだ。不思議なことに、今考えても全く違和感というか外国人という感覚が無い。奥さんは確か日

本人だったと記憶しているが、子供が一人、これだけははつきりと覚えている。かわいい女の子で、名前をキャロルと言った。果たして彼女と日本語でコミュニケーションをとったのか、全く覚えていない。わずかに残った1、2枚のスナップ写真を見ると自分であって、自分で無いような不思議な気持ちになってくる。何故、青い目と金髪に全く違和感を感じなかったのか、自分でも分からない。

施設庁で仕事をすることになったのは、その時の：などと考えるが。終戦処理業務を行う調達庁から始まり、防衛施設庁の現在に至るまでの変革の時代を担ってきた一時期の横浜局に在職し、米軍等に関わる仕事をすることになるとは不思議な因縁めいたものを感じる。

今般の施設庁解体、防衛省への統合は「施設庁」という名前が無くなり、一抹の寂しさもあり、残念ではあるが、ちょうど団塊の世代が定年を迎えて去っていく、「時の流れ」であろう。

しかし、自分には多くの諸先輩方や、仲間で培ってきた施設庁で体験しているの思い出がいつまでも残っていくだろうと考えている。

地方防衛局として新たなスタートを迎え、私は時の流れに乗っていくことになるが、新たな思い出が後輩の皆さんに多く残っていくことを望みたいと思います。

研修実績・計画

平成18年度 4/四半期実績

◆集合研修

防衛施設庁初任幹部研修

平成19年1月10日～12日

施設部施設企画課長 遠藤正志

防衛省女性研修(係長級)

平成19年2月20日～23日

総務部総務課人事係長 樋口睦美

防衛施設庁中堅幹部研修

平成19年1月25日～2月2日

施設部施設企画課課長補佐

中村信次ほか1名

◆機関別研修

横浜局初任者事後研修

平成19年3月1日～2日

建設部土木課齊藤之敬ほか2名

横浜局配置転換前研修

平成19年3月1日～9日

関東農政局茨城農政事務所統計部

統計企画課企画調整係長

軍司 洋ほか1名

◆委託研修

人事院関東地区メンター養成研修

平成19年2月9日

総務部総務課総務係長 佐藤友彦

人事院関東地区JKET

指導者養成コース

平成19年3月7日～9日

総務部総務課共済係長 出崎修身
英会話研修(同時通訳入門コース)
平成19年1月16日～3月13日

事業部業務課 古沢 静

英会話研修(同時通訳入門コース)

平成19年1月18日～3月15日

施設部施設企画課 中嶋暁子

英会話研修(通訳者養成コース
及び専修コース)

建設部建設企画課 山田美智子

英会話研修(通訳者養成コース)

平成19年1月16日～2月26日

座間事務所 杉森 新

英会話研修(通訳者養成コース)

平成19年1月22日～2月26日

横須賀事務所 天野尚文

横浜局パソコン研修

(Excel2003応用ほか3コース)

平成19年3月14日～16日

関東地区係長研修

平成19年1月16日～19日

総務部会計課総務係長 渡邊泰弘

平成19年度 研修実績

◆集合研修

防衛施設庁採用者初任研修

(I種・II種採用者)

平成19年4月9日～26日

施設部施設企画課基地対策室

塚本景子ほか4名

防衛施設庁採用者初任研修

(III種採用者)

平成19年4月9日～13日
施設部施設管理課
有川雄太郎ほか8名

防衛省中級研修(前期)

平成19年5月14日～6月15日

事業部業務課 東 城一

防衛省中級研修(後期)

平成19年6月29日～8月3日

総務部会計課 木本麻美ほか2名

防衛施設庁損害賠償業務研修

平成19年7月3日～6日

事業部業務課事故補償第一係長

藤森智弘ほか1名

防衛施設庁幹部研修

平成19年7月24日～27日

総務部長 三井吉澄ほか2名

機関別研修

横浜局監督者研修

(JST基本コース)

平成19年8月7日～9日

施設部施設企画課総務係長

神崎忠房ほか14名

◆委託研修

人事院関東地区女性職員

キャリアサポートセミナー

平成19年5月16日～18日

施設部施設取得課

賃借契約第五係長 小島智子

内閣府交通事故相談員中央研修会

(初任者コース)

平成19年5月28日～31日

事業部業務課 古沢 静ほか2名

人事院関東地区中堅係員研修

平成19年6月26日～29日

施設部施設管理課 蓮見隆春

※人事院関東地区コーチング実践
研修
(平成19年7月6日～11月2日の
間で6回)

施設部取得取得課

賃借契約第三係長大堀千洋

平成19年度 研修計画

◆集合研修

防衛省女性研修(係員級)

平成19年9月4日～7日

◆機関別研修

初任者事後研修

3/四半期(11月下旬) 予定

横浜局英会話研修(外部委託)

4/四半期 予定

◆委託研修

人事院関東地区中堅係員研修

3/四半期(10月中旬) 予定

人事院関東地区課長研修

平成19年9月11日～13日

人事院関東地区係長研修

3/四半期(11月中旬) 予定

神奈川県第1種衛生管理者試験
準備講習会

3/四半期(11月下旬) 予定

人事院関東地区課長補佐研修

3/四半期(12月中旬) 予定

米軍関係者
感謝状贈呈

◎平成19年1月14日(日)贈呈式
在日米海軍司令部
作戦・企画・兵站主任参謀
デビット・A・ラウスマン大佐

◎平成19年4月16日(月)贈呈式
米海軍横須賀基地司令官
グレゴリー・J・コーニシユ大佐



感謝状を受け取られる
デビット・ラウスマン大佐

◎平成19年5月30日(水)贈呈式
在日米陸軍日本国際業務部長
デイヴィット・E・
ハンターチェスター大佐

◎平成19年6月14日(木)贈呈式
米国陸軍工兵隊日本地区
技術本部司令官
ロバート・J・ヴァスタ大佐

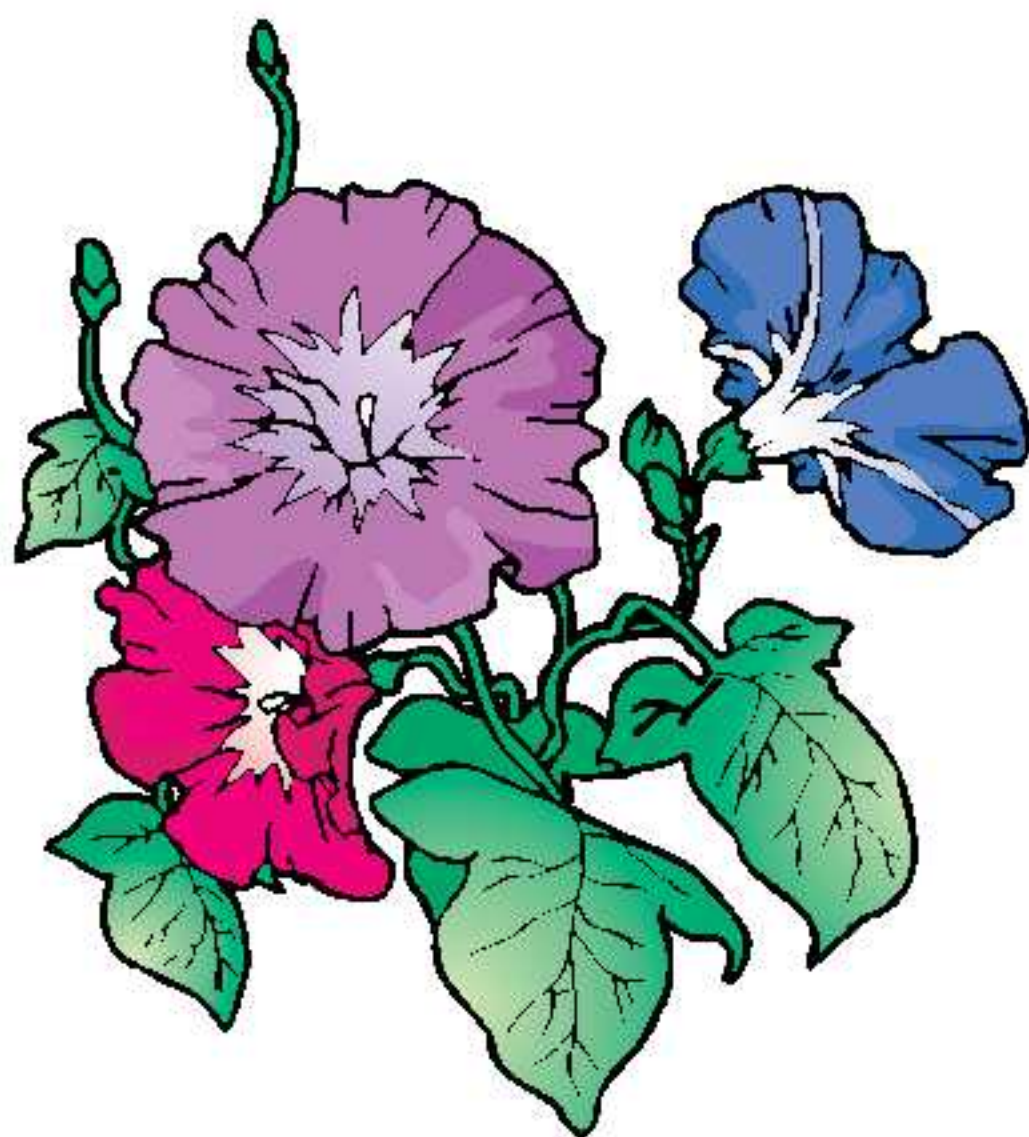


感謝状を受け取られる
グレゴリー・コーニシユ大佐

感謝状を受け取られる
デイヴィット・ハンター
チェスター大佐



感謝状を受け取られる
ロバート・ヴァスタ大佐



退職者、
大変ご苦勞様でした



◎平成19年3月31日付け退職

柿本 康博
事業部 事業調整官



古澤 勇次
総務部会計課課長補佐（総括）



酒向 正訓
富士防衛施設事務所業務課長



内藤 洋子
総務部総務課



我妻 睦美
総務部総務課



安部 信隆
総務部会計課



高橋 博行
建設部土木課課長補佐



根本 謙一
労務対策調査専門官



◎平成19年6月1日付け退職

内田 壽夫
事業部施設対策第三課
住宅防音第二係長



新しい仲間
どうぞよろしく



◎平成19年4月1日付

塚本 景子
施設部施設企画課



軍司 洋（※配置転換）
施設部施設管理課



上原 正之
事業部施設対策第三課



山本 浩（※配置転換）
事業部施設対策第三課



松田 聡
建設部建設企画課



千光士 あや
建設部建築課



野田 朋宏
建設部土木課



森田 佳織
座間事務所



西田 昌弘
座間事務所



菊池 貴史
吉田事務所



山下 智弘
富士事務所



あとがき

夏の太陽のようにお元気でしょうか。



横浜防衛施設局は、昭和三十七年（一九六二年）十一月一日に調達庁横浜調達局と防衛庁建設本部東京建設部横須賀支部が統合されて発足し、およそ四十五年間防衛施設行政に携わってまいりました。この間、当局の管轄の地域の皆さまのご理解とご協力を得ることを最大の使命としてその歴史を刻んできたところです。



この間には一方ならない皆さまからの叱咤や激励を賜り、一言では言い表せない、さまざまなる事象が目に見え、浮かんではまいります。何と申しましても皆さまに支えられてきたことが、この長い歴史を築けたものであり感謝に堪えません。



九月一日には防衛施設庁は防衛省に統合され、当局も防衛省の地方における防衛行政の拠点として南関

東防衛局という名称でスタートすることになります。

これまで以上に防衛行政の仕事は重要性が益々大きくなり、より地域の皆さまとの関係の強化に努める必要性をひしひしと感じております。

これからも皆さまのご意見ご支援があつてこそ当局の役割も果たせていくことができるものと思っておりますので、横浜防衛施設局は南関東防衛局に変わりますが、これまで「横防」として親しんでいただいたように同様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

これまで頂きましたご支援等から感謝申し上げます。



今年も早い台風、長雨や新潟中越沖地震などにより全国的な被害が伝えられるなど、生活における不安感も多い状況となっておりますが、これらの教訓を生かしたり、みんなで支え合う大切さを私達もしっかりと考えていきたいと思っております。



新しいスタートに当たり、職員一人一人が健康管理には十分気を付けて元気ががんばりましょう。

私たち編集委員は、個人情報保護のため、その取り扱いに十分注意し、適正な管理に努めています。